

「発達性視機能障害の 評価と治療—その1」

南大阪療育園 訓練部 作業療法科主任 渡辺 薫

海外研修の直接の動機であったエアハルト女史（Rhoda Priest Erhardt, MS, OTR）のワークショップ「発達性視機能障害の評価と治療」に、念願かなって参加することができましたので、今回は、その内容について報告させていただきます。

エアハルト女史は、1953年にアメリカ、イリノイ大学の作業療学科で学士課程を終え、さらに1974年に、ノースダコタ州立大学にて「子供の発達と家族関係」というテーマで修士号を修められました。そして1977年には、イギリスのロンドンで脳性麻痺のための神経発達学的治療のトレーニングを受けられました。11年の小児施設での臨床経験の後、1978年から個人開業され、かつ特殊教育や病院、施設関係者へのプログラム指導や大学での学生指導にもあたられ、そしてこのような数々のワークショップを勢力的に開き、世界中を飛び回っておられました。近年、すでに日本語訳でも出版されました「Developmental Hand Dysfunction」の著者でもありますので、ご存じの方も多いと思います。

ワークショップは、3日間で構成され、「成人の正常視運動機能」、「生後6カ月までの視機能の正常発達」、「視機能の異常発達」、「エアハルト視機能発達評価表の使い方」、「評価の実際」、「評価結果の分析解釈と治療計画」、「脳性麻痺児の評価と治療」、「治療実習」がおもな内容でした。

それでは評価表の紹介と講義の内容の要約を以下、今回と次回の2回に分けて報告いたします。



●精力的に活躍するエアハルト女史

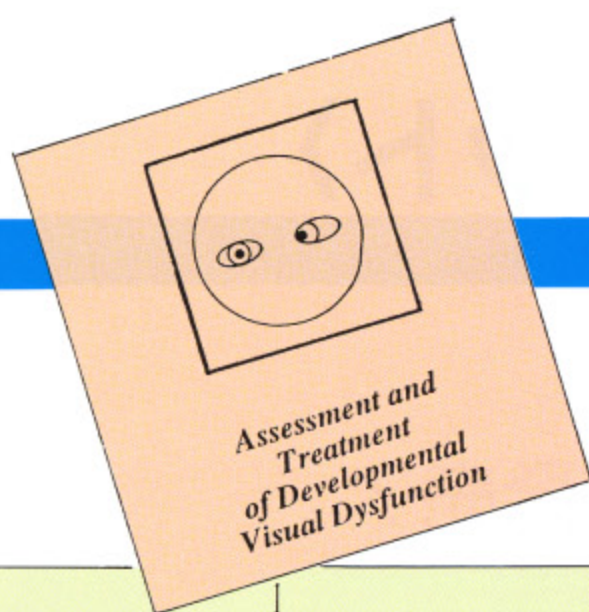
アメリカでは80%の脳性麻痺児が何等かの視運動機能に問題を持つと言われています。例えば、遠視や近視、乱視、また斜視、眼振などです。こういった問題は、単に見えにくいといった問題にとどまらず、見え易い位置に頭をもっていくために悪い姿勢になりやすかったり、教室などで学習する際、疲れやすく集中力を鈍らせたり、さらには学習内容の理解を遅らせたりすることにもつながると言っています。エアハルト女史は、眼科医らと協力して乳児の視機能の正常発達を調査研究し、生後6カ月が視機能のひとつの成熟期であり、原始的な反射活動が統合されてより随意的な視運動機能が発達してくることを発見しました。脳性麻痺児は、この生後6カ月の成熟期を越えられず、問題を抱えている場合が多いのです。こういった問題を早期に発見し、治療を行うことで異常発達をできるだけ防ぎ、うまく眼を使うよう、見ることと姿勢や運動、動作全体との相互関係を考え、援助していくことを目指しています。

エアハルト視機能発達評価表は、視運動機能の発達を大きく2つのパートにわけており、ひとつは原始的で未熟な無意



●評価に使う器具





Developmental Levels: Right, Left Pattern Components: RL 6 months 1 month Fetal Fetal	Developmental Levels: Right, Left Pattern Components: RL 6 months 4 months 3 months	Developmental Levels: Right, Left Pattern Components: RL 6 months 5 months 4 months 3 months	Developmental Levels: Right, Left Pattern Components: RL 6 months 5 months 4 months 3 months	Developmental Levels: Right, Left Pattern Components: RL 6 months 5 months 4 months 3 months	Developmental Levels: Right, Left Pattern Components: RL 6 months 5 months 4 months 3 months
Developmental Levels: Right, Left Pattern Components: RL 3 months 2 months Natal Fetal	Developmental Levels: Right, Left Pattern Components: RL 2 months 1 month Natal Fetal	Developmental Levels: Right, Left Pattern Components: RL 2 months 1 month Natal Fetal	Developmental Levels: Right, Left Pattern Components: RL 2 months 1 month Natal Fetal	Developmental Levels: Right, Left Pattern Components: RL 2 months 1 month Natal Fetal	Developmental Levels: Right, Left Pattern Components: RL 2 months 1 month Natal Fetal

●エアハルト視機能発達評価表

識に不随意的に起こる視運動群で、もうひとつは、やはり原始的で未熟ではあるけれど随意的にコントロールできる視運動群です。前者には、瞳孔反応（光の刺激量を調節するため瞳孔が縮小、拡大する反応）、人形の眼現象（頭が回転する方向と反対に眼球が動く現象）、瞬目反射（外的刺激から眼球を保護する反射）があります。後者には、視定位運動（対象物に視線を接近させること）、固視（対象物に焦点を合わせ、じっと見続けること）、追視（対象物の移動に合わせて視線を移動させていくこと）、視線変換（いくつかの対象物間を見比べること）が含まれます。

評価表には、これらの視運動群の発達段階が細かく記載されているため、実際に子供さんがどんなところでつまづき、次にどうなっていけばよいのかといった、問題点の把握と治療計画の立て方が分かりやすいと思います。但し評価するうえでは評価項目が多いのでなれるまでに時間がかかることと、

眼の動きといった微細な反応に対する観察力が求められるところが難しいところです。

次回は、評価内容の実際についてと子供達への具体的な治療計画について紹介します。なお、エアハルト女史がこの評価表を用いて指導援助した症例検討報告が、アメリカの作業療法ジャーナル、1987年1月号に紹介されていますので一読をお勧めします。また、エアハルト女史のワークショップのスケジュールは、次の住所へ直接問い合わせれば、郵送していただけます。

Rhoda Priest Erhardt, MS, OTR
2109 3rd Street North, Fargo, North Dakota
58102, USA

なお、このシリーズに関する要望やお問い合わせは、直接筆者までご連絡下さい。

〒546 大阪市東住吉区山坂5-11-21 TEL 06-699-8731